

**2009年7月改訂（第9版）
*2007年9月改訂

処方箋医薬品^{注)}

日本標準商品分類番号
871139

てんかん小発作治療剤

エピレオプチマル[®]散 50% *Epileo petit mal[®]*

〈エトスクシミド製剤〉

承認番号	21900AMX00665000
薬価収載	2007年6月
販売開始	1967年10月
再評価結果	1975年6月

- *〔貯 法〕 室温保存
開栓後は湿気を避けて保存すること。
〔使用期限〕 ラベルに表示の使用期限内に使用すること。
注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

【禁 忌】（次の患者には投与しないこと）

1. 本剤の成分に対して過敏症の既往歴のある患者
2. 重篤な血液障害のある患者
〔血液障害を悪化させることがある。〕

【組成・性状】

1. 組成

本剤は、1g中にエトスクシミド500mgを含有する白色の散剤である。
添加物として含水二酸化ケイ素、サッカリンナトリウム水和物、白糖、香料を含有する。

2. 製剤の性状

本剤は、白色の散剤である。

【効能・効果】

定型欠神発作（小発作）、小型（運動）発作〔ミオクロニー発作、失立（無動）発作、點頭てんかん（幼児けい縮発作、BNSけいれん等）〕

【用法・用量】

通常成人には1日0.9～2g（エトスクシミドとして、450～1000mg）を2～3回に分けて経口投与する。
小児は1日0.3～1.2g（エトスクシミドとして、150～600mg）を1～3回に分けて経口投与する。
なお、年齢、症状に応じて適宜増減する。

****【使用上の注意】**

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 肝障害、腎障害のある患者
〔作用が強くあらわれやすい。〕
- (2) 薬物過敏症の患者

2. 重要な基本的注意

- (1) 混合発作型では、単独投与により大発作の誘発又は増悪を招くことがある。
- (2) 連用中は定期的に肝・腎機能、血液検査を行うことが望ましい。
- (3) 眠気、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないように注意すること。

3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
バルプロ酸ナトリウム	本剤の作用が増強される可能性がある。	本剤の代謝が阻害され、本剤の血中濃度が上昇する。
フェニトイン	フェニトインの作用を増強することがある。	機序不明
カルバマゼピン	本剤の作用が減弱される可能性がある。	カルバマゼピンがCYP3A4を誘導し、本剤の代謝が促進され血中濃度が低下する。

4. 副作用

総症例2,103例中、481例（22.87%）の副作用が報告されている。（再評価結果時）

(1) 重大な副作用（頻度不明）

- 1) **Stevens-Johnson症候群** Stevens-Johnson Syndrome（発熱、皮膚・粘膜の発疹又は紅斑、壊死性結膜炎等の症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。
- 2) **SLE様症状** SLE様症状（発熱、紅斑、筋肉痛、関節痛、リンパ節腫脹、胸部痛等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。
- 3) **再生不良性貧血、汎血球減少** 再生不良性貧血、汎血球減少があらわれることがあるので、このような場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2) その他の副作用

	0.1～5%未満	0.1%未満	頻度不明
過敏症 ^{注1)}			猩紅熱様・麻疹様・中毒疹様発疹又は光線過敏症
血液 ^{注2)}	白血球減少、好酸球増多、顆粒球減少		
精神神経系	頭痛、眠気、眩暈、疲労感、多幸感、妄想、運動失調、幻覚		抑うつ、夜驚、焦躁多動、攻撃性
眼 ^{注3)}		羞明	
消化器	悪心・嘔吐、食欲不振、腹痛、下痢		胃痙攣
その他	しゃっくり		

注1) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。

注2) このような場合には減量するなど適切な処置を行うこと。

注3) 定期的に視力検査を行うことが望ましい。

（裏面につづく）

5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので、患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

[胎盤を通過することが報告されており、本剤を妊娠中に投与された患者において、奇形を有する児（口唇裂等）を出産したとの報告がある。また、新生児に離脱症状又は鎮静症状が認められたとの報告がある。]

(2) 授乳中の婦人には投与しないことが望ましいが、やむを得ず投与する場合には、授乳を避けさせること。

[ヒト母乳中に移行することが報告されている。]

**7. その他の注意

海外で実施された複数の抗てんかん薬における、てんかん、精神疾患等を対象とした199のプラセボ対照臨床試験の検討結果において、自殺念慮及び自殺企図の発現のリスクが、抗てんかん薬の服用群でプラセボ群と比較して約2倍高く（抗てんかん薬服用群：0.43%、プラセボ群：0.24%）、抗てんかん薬の服用群では、プラセボ群と比べ1000人あたり1.9人多いと計算された（95%信頼区間：0.6-3.9）。また、てんかん患者のサブグループでは、プラセボ群と比べ1000人あたり2.4人多いと計算されている。

【薬物動態】

有効血中濃度：成人40～100 μ g/mL

血中濃度測定頻度：月1回

本剤の代謝に関与する主なP450分子種：CYP3A4

【臨床成績】

臨床効果

一般臨床試験において、てんかん小発作に対する本剤の有効性が認められており、そのうち主なものは次の通りであった。

1. 定型欠神発作（小発作）に対する本剤の有効率は、90.2%（239/265）となり、そのうち完全抑制率は61.1%（162例）であった。
2. ミオクロニー発作に対する本剤の有効率は、56.4%（44/78）であった。

【薬効薬理】

1. 抗痙攣作用

カルジアゾール痙攣と小発作には類似性がみられるが、マウスによる実験では、カルジアゾール注射による痙攣の発現を本薬は著明に遅延、抑制した。しかし、電気痙攣には無効であった。(1)

2. 臨床脳波像の改善

小発作患者において臨床発作の改善と並行して、異常脳波、特に小発作波形（3c/s spike and wave）の消失、ないしは持続時間の短縮、発現頻度の減少、Seizure dischargeの短縮などの改善がみられる。(2)

【有効成分に関する理化学的知見】

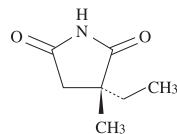
一般名：エトスクシミド（Ethosuximide）

化学名：(2RS)-2-Ethyl-2-methylsuccinimide

分子式：C₇H₁₁NO₂

分子量：141.17

構造式：



及び鏡像異性体

物理化学的性状：

エトスクシミドは白色のパラフィン状の固体又は粉末で、においはないか、又はわずかに特異なにおいがある。

本品はメタノール、エタノール（95）、ジエチルエーテル又は*N,N*-ジメチルホルムアミドに極めて溶けやすく、水に溶けやすい。

融点：約48℃

【包装】

エピレオプチマル散50%..... 500g

【主要文献】

文献請求番号

- ① Sorel, L. : Acta Neurologica et Psychiatrica Belgica, 60, 551 (1960) EO-0032
- ② 平井富雄ら：精神医学, 7, 142 (1965) EO-0001

【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

エーザイ株式会社 hhcホットライン

フリーダイヤル 0120-419-497

製造販売元



エーザイ株式会社
東京都文京区小石川4-6-10